

株式会社 エーワン精密

平成25年6月期・第2四半期決算説明資料

平成25年6月期・第2四半期決算説明資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ コレットチャック部門	3
④ 切削工具部門	4
⑤ 自動旋盤用カム部門	5
(2) 第2四半期決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 切削工具部門	11
③ 自動旋盤用カム部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

13,500社以上の顧客からリピートオーダーが入る

コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

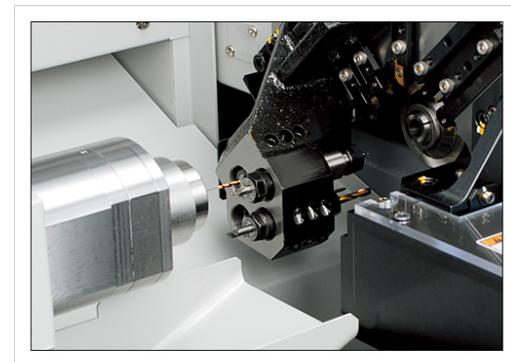
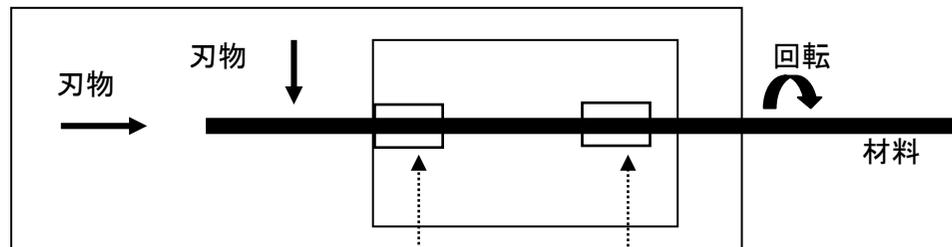
NC旋盤 2,320億円(2012年生産額) 16,083台
うち CNC自動旋盤約 1,200億円(2012年推定生産額)

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリーミヤノ、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 985億円(2012年生産額) 4,533台



加工部品

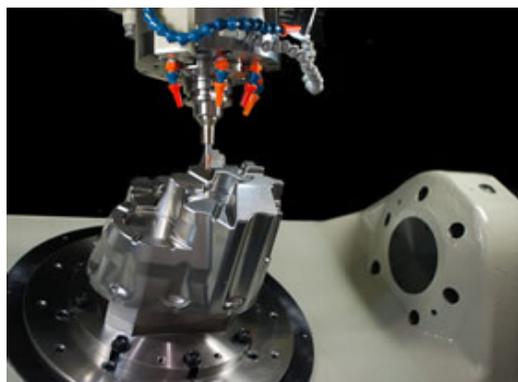
精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	4,654億円(2012年生産額)	45,998台
NCフライス、中ぐり盤	195億円(2012年生産額)	736台

使用される工具

超硬エンドミル	338億円(2012年生産額)
超硬ドリル	285億円(2012年生産額)
その他超硬工具	380億円(2012年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

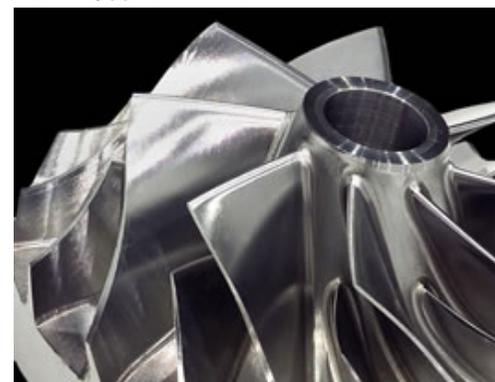
オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

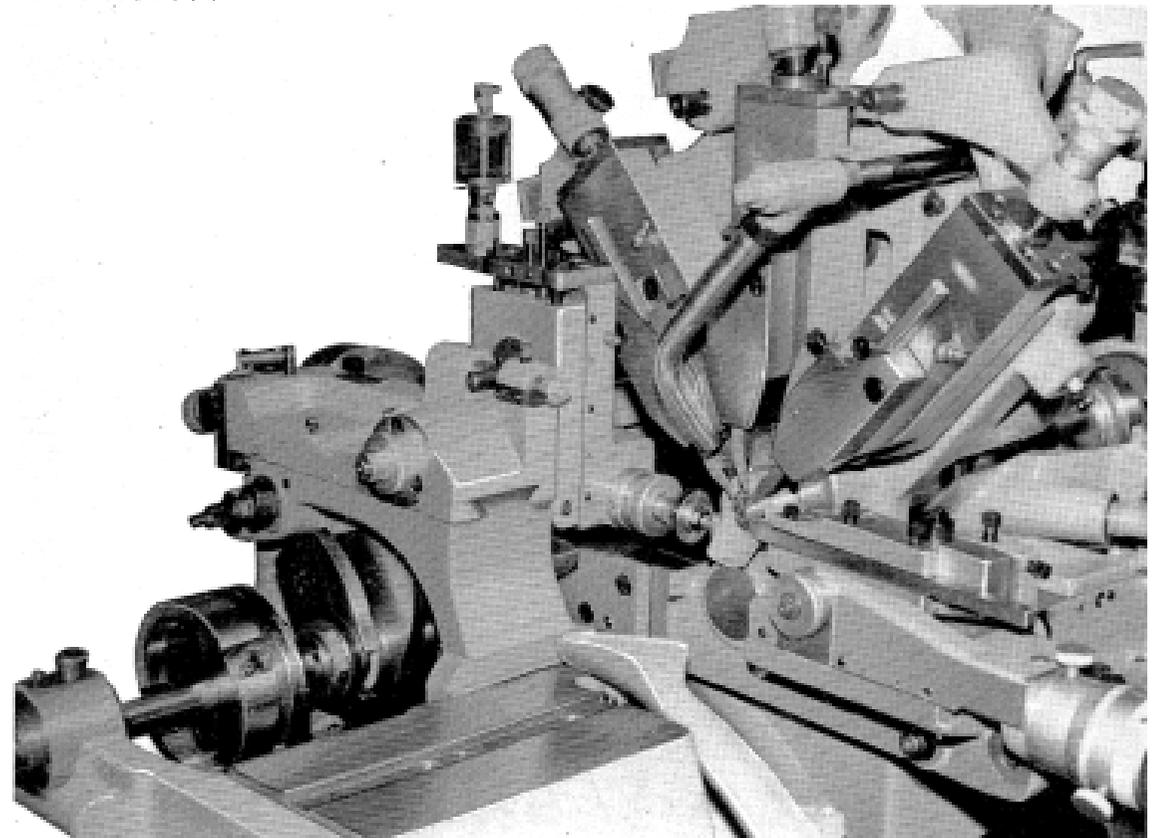
製品写真



カム式自動旋盤(型番: NS-P1053)



カム取付後写真



平成25年6月期・第2四半期累計期間 決算概要

売上 欧州の経済低迷と米国の景気回復ペースの遅さなどで新興国の輸出が鈍化し、新興国自体も経済成長率が低下傾向となり世界的に製造業における機械稼働率が落ち込みました。また、日中関係の悪化により、当社の量産品に係わる工具を製造しているコレットチャック部門では受注の落ち込みが大きくなり、また切削工具部門でも伸び率が鈍化し緩やかな売上の伸びにとどまりました。対前年同期比では微減にとどまった。

原価 減価償却費と外注加工費が微増した。

利益 売上高の減少により、利益率は低下した。

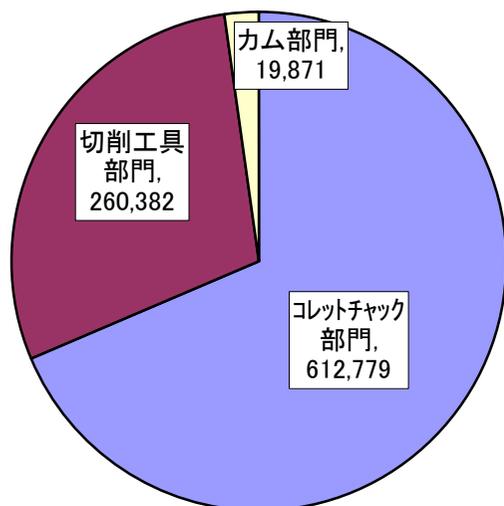
人件費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
労務費	342,105	332,264
コストに占める比率	50.2%	48.0%

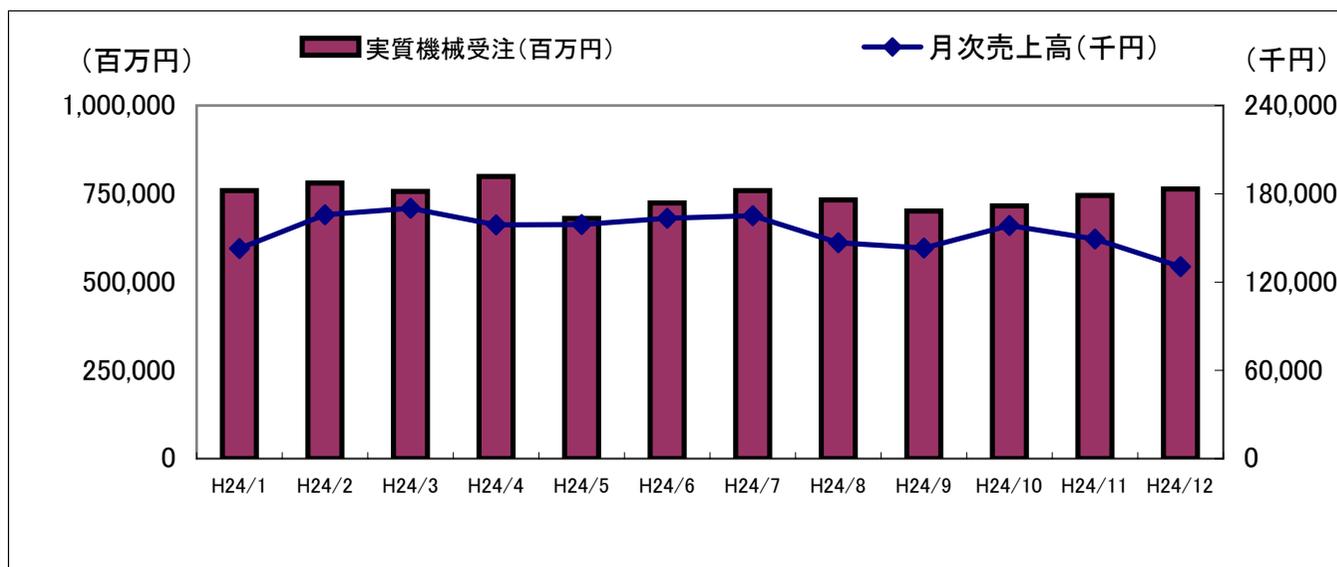
設備投資額と減価償却費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
設備投資額	427,441	63,635
減価償却費	132,904	138,261

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成25年6月期・第2四半期 損益の状況

(単位：千円)

	前第2四半期(累計)			当第2四半期(累計)			増減要因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	647,139	70.5%	100.4%	612,779	68.6%	94.7%	・世界経済の景気鈍化と中国での日本製品の売上減少により、海外向け量産加工用の受注が低下し、売上は前期より減少した。
切削工具	244,016	26.6%	115.8%	260,382	29.2%	106.7%	・特殊工具需要は底堅く、多品種小ロット・単品加工の刃具再研磨需要の増加により売上は前期より増加した。
自動旋盤用カム	27,005	2.9%	87.8%	19,871	2.2%	73.6%	
合計	918,161	100.0%	103.6%	893,034	100.0%	97.3%	
売上原価	540,787	58.9%	107.5%	556,018	62.3%	102.8%	・外注加工費と原価償却費が増加した。
売上総利益	377,373	41.1%	98.5%	337,015	37.7%	89.3%	・売上高の減少により利益が減少した。
販売費及び一般管理費	141,264	15.4%	98.7%	138,150	15.4%	97.8%	
営業利益	236,109	25.7%	98.4%	198,865	22.3%	84.2%	
経常利益	256,171	27.9%	101.2%	212,890	23.8%	83.1%	
当期純利益	142,472	15.5%	96.0%	129,312	14.5%	90.8%	

平成25年6月期・第2四半期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	前事業年度末		当第2四半期		主 な 増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	3,453,719	46.9%	3,713,481	49.1%	・利益の積み上げ分が設備投資を上回り、定期預金が3億円増加
売上債権	427,358	5.8%	379,132	5.0%	・受取手形及び売掛金 48,226千円減少
棚卸資産	205,139	2.8%	201,579	2.6%	・仕掛品 5,338千円減少
その他流動資産	18,467	0.3%	20,148	0.3%	
固定資産	3,255,633	44.2%	3,253,747	43.0%	
資 産 合 計	7,360,318	100.0%	7,568,089	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	15,940	0.2%	12,042	0.1%	
その他流動負債	125,350	1.7%	217,920	2.9%	・未払法人税等 92,257千円増加
固定負債	340,816	4.7%	356,484	4.7%	
負 債 合 計	482,107	6.6%	586,447	7.7%	
純資産合計	6,878,210	93.4%	6,981,642	92.3%	
負債・純資産合計	7,360,318	100.0%	7,568,089	100.0%	

平成25年6月期・第2四半期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	対前年同期比 増減額	主 な 増 減 要 因 (対 前 期 比)
営業活動によるキャッシュ・フロー	223,967	443,083	219,116	主な増加要因：税引前当期純利益 212,767千円 減価償却費 138,261千円 主な減少要因：法人税等の支払額 12,512千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 133,568	▲ 1,247,228	▲ 1,113,660	主な減少要因：定期預金の純増減額の増加 1,178,849千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 97,557	▲ 104,942	▲ 7,385	全額配当金の支払い額
現金及び現金同等物の増減額	▲ 7,158	▲ 919,087	▲ 911,929	主な減少要因：定期預金の純増減額の増加 1,178,849千円
現金及び現金同等物の期末残高	1,153,362	396,817	▲ 756,545	

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門

事業環境

- ◇金属部品加工の微細化・精密化の進展
- ◇大量生産品や高精度を要求されない部品は海外生産へ
- ◇工具の売上は機械稼働率とほぼ連動

競合状況

- ◇国内は数社、中国等の工具メーカーの台頭（納期・品質で不安定）

当社の事業展開

- ◇専用機・NC旋盤向け特殊コレットチャックの対応力向上
- ◇顧客の要望の充足、納期・品質の徹底

今後の事業展開 ～ 切削工具部門

事業環境

- ◇加工複雑化に伴い特殊刃物ニーズ拡大
- ◇高価な超硬工具普及により再研磨ニーズ増大
- ◇加工工程短縮・効率化を図るため、高精度の特殊切削工具へのニーズが高まる

競合状況

- ◇市場規模推定250億円
- ◇メーカー系、工具商社、各地域ごとに中小規模専門多数

当社の事業展開

- ◇営業地域拡張し、知名度・認知度向上を目指す
- ◇特殊ものへ対応範囲を拡大し、新たな顧客層の拡大に努める

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

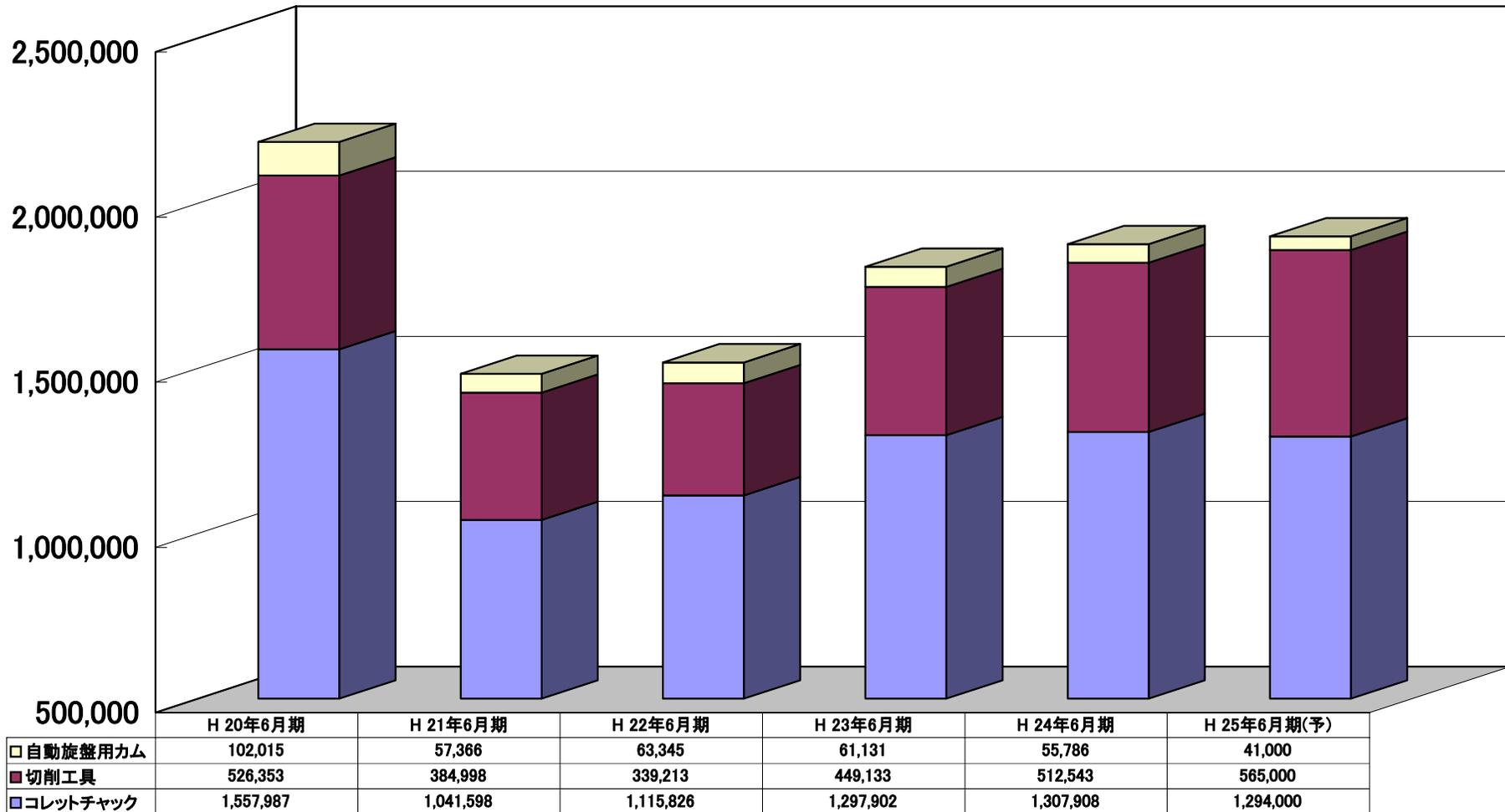
- ◇1億円の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

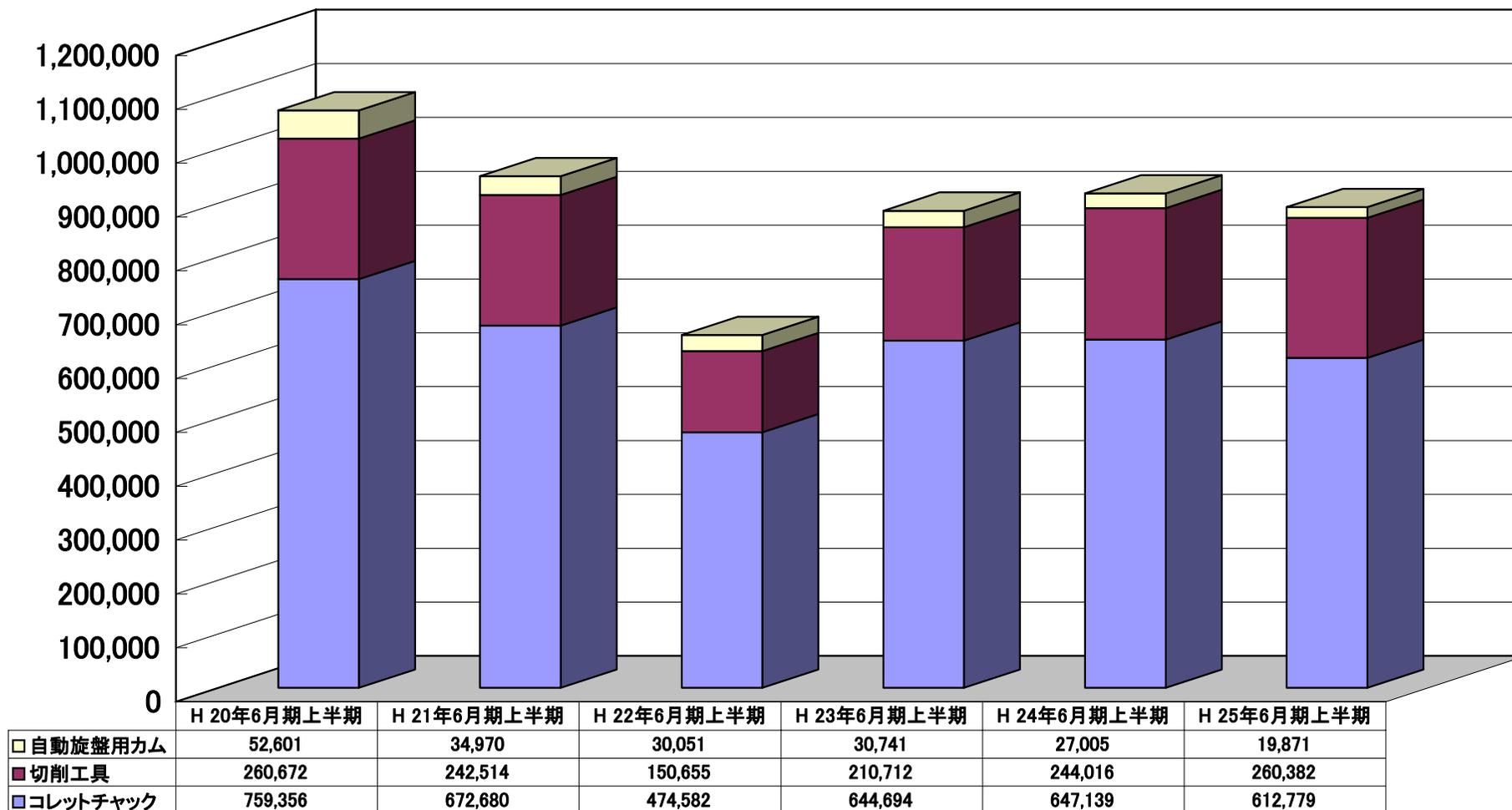
部門別売上状況

(単位：千円)



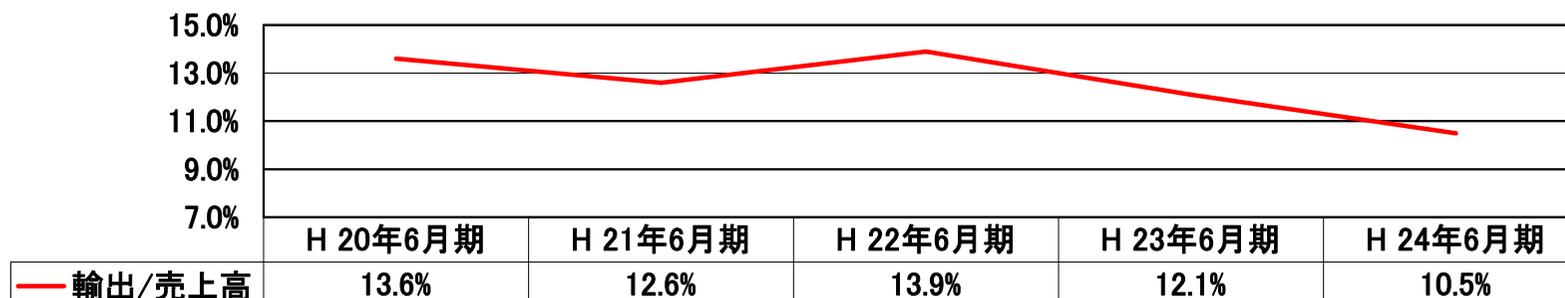
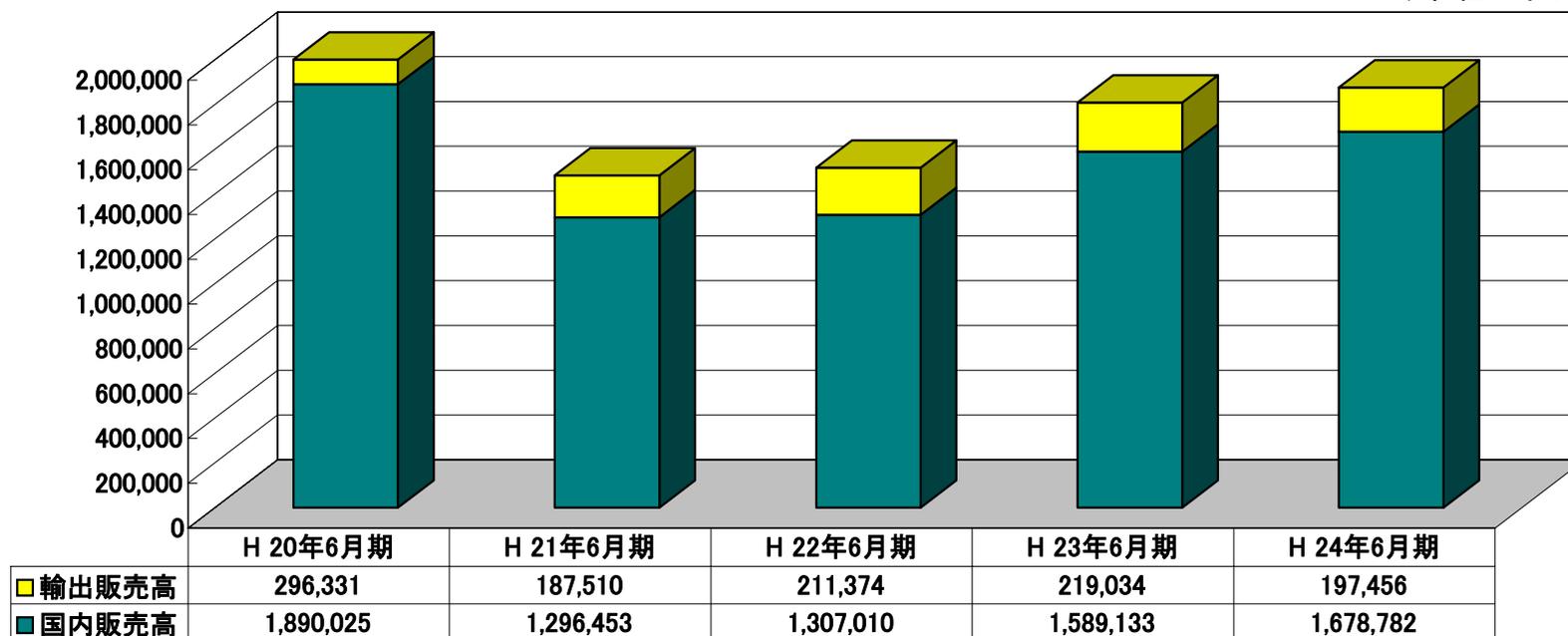
上半期部門別売上状況

(単位：千円)



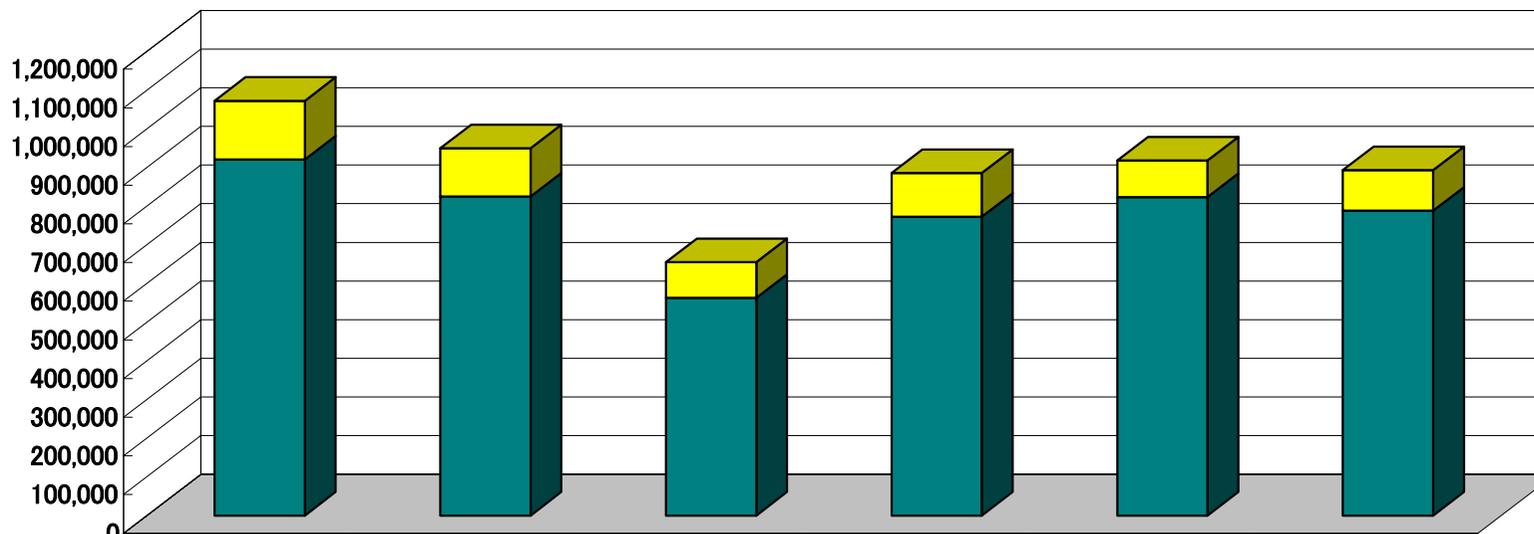
輸出売上状況

(単位：千円)

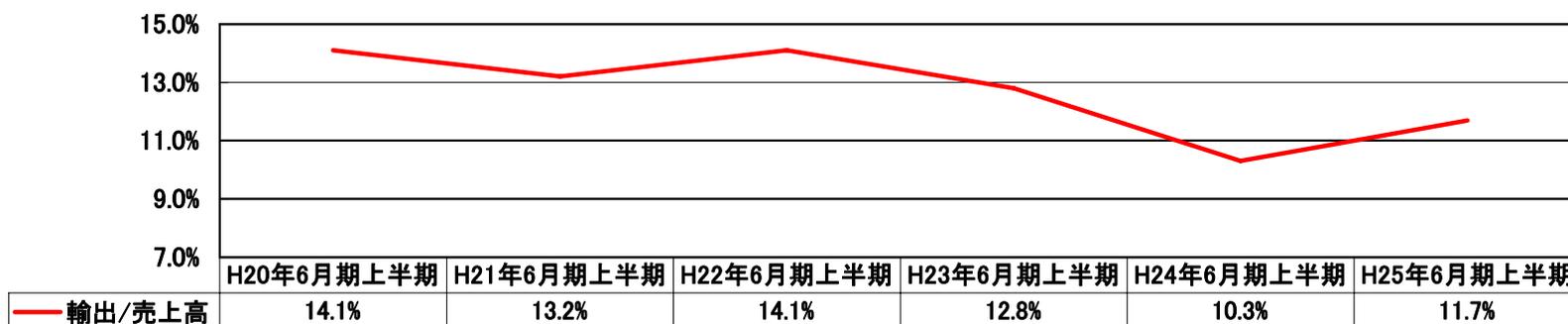


上半期輸出売上状況

(単位：千円)

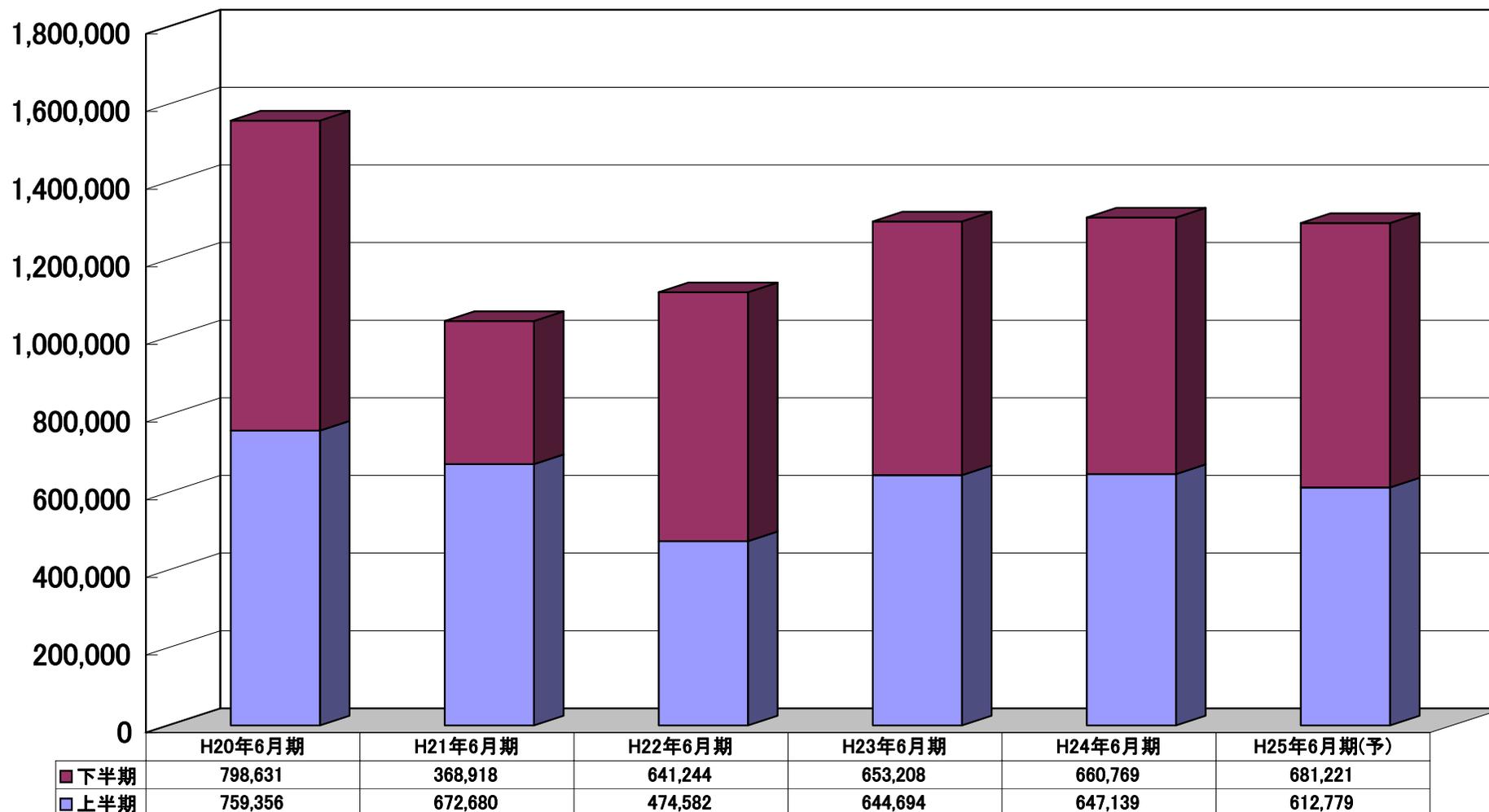


	H20年6月期上半期	H21年6月期上半期	H22年6月期上半期	H23年6月期上半期	H24年6月期上半期	H25年6月期上半期
輸出販売高	151,624	125,336	92,315	113,657	94,249	104,345
国内販売高	921,004	824,828	562,973	772,490	823,911	788,688



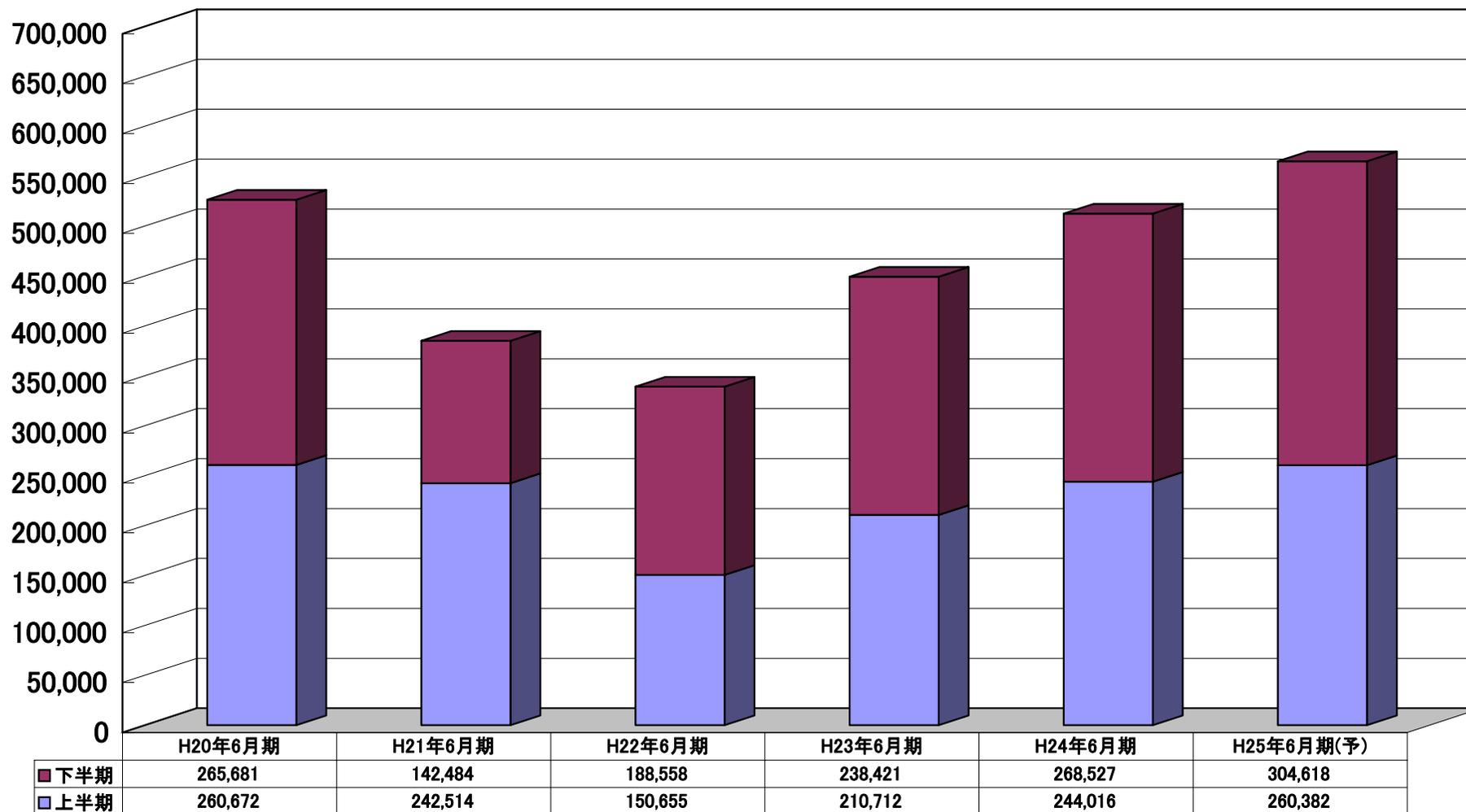
部門別状況 ～ コレットチャック部門

コレットチャック部門売上高(単位:千円)



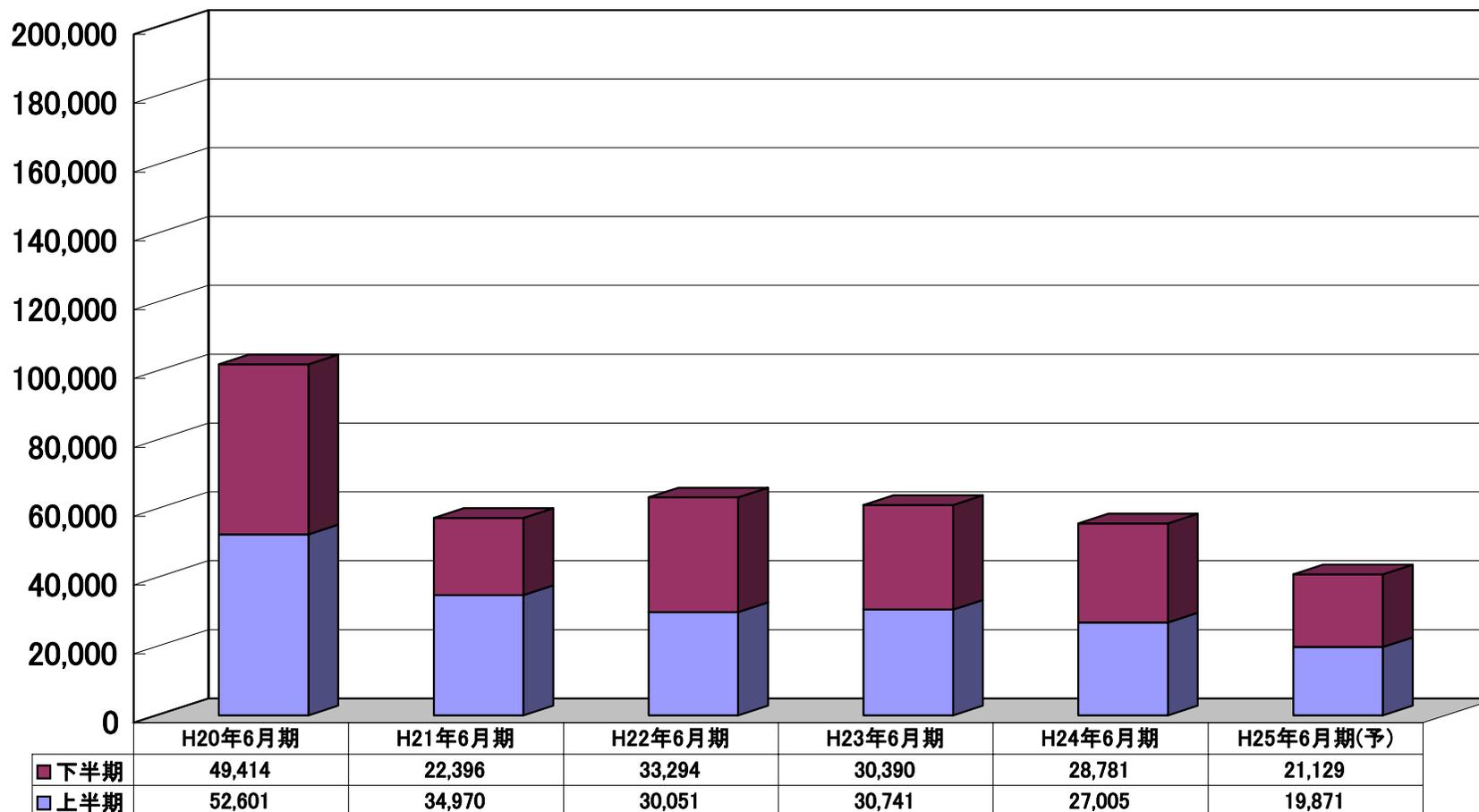
部門別状況 ～ 切削工具部門

切削工具売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

カム部門売上高(単位:千円)



設備投資と減価償却実施額

設備投資額 (単位:千円)	H21年6月期	H22年6月期	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期
上半期	303,846	163,281	38,580	427,441	63,635
通 期	513,931	225,010	133,667	532,629	163,635(予)

減価償却費 (単位:千円)	H21年6月期	H22年6月期	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期
上半期	99,654	111,069	104,406	132,904	138,261
通 期	210,917	233,795	216,881	291,159	273,713(予)

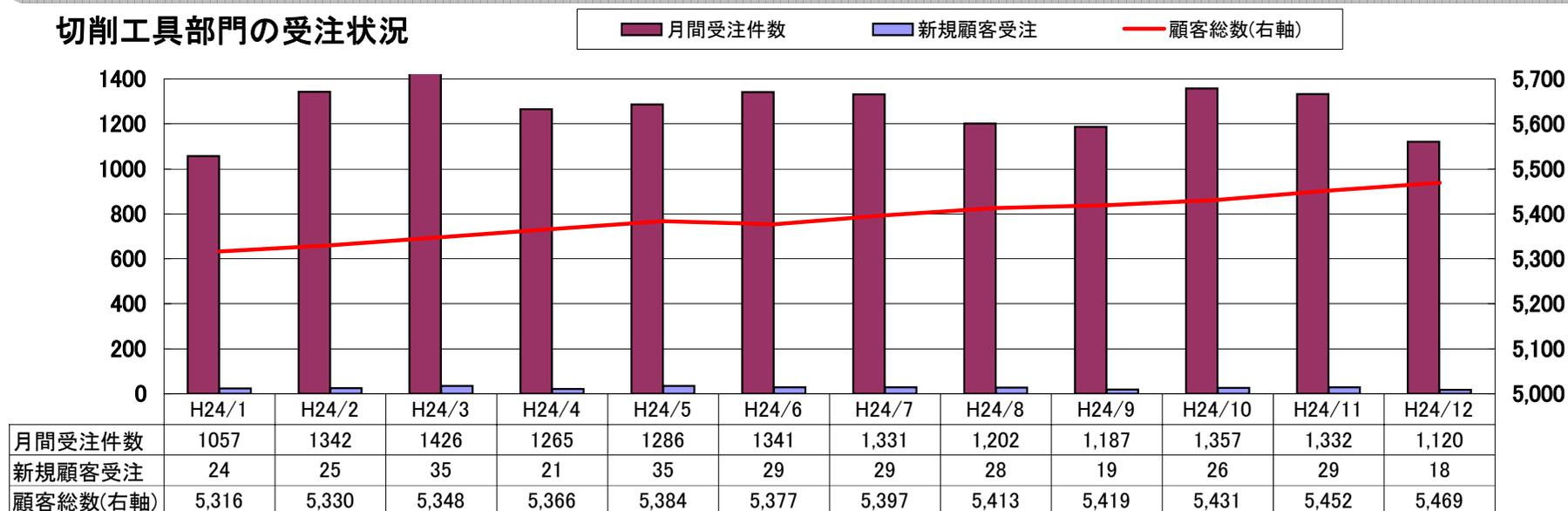
切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

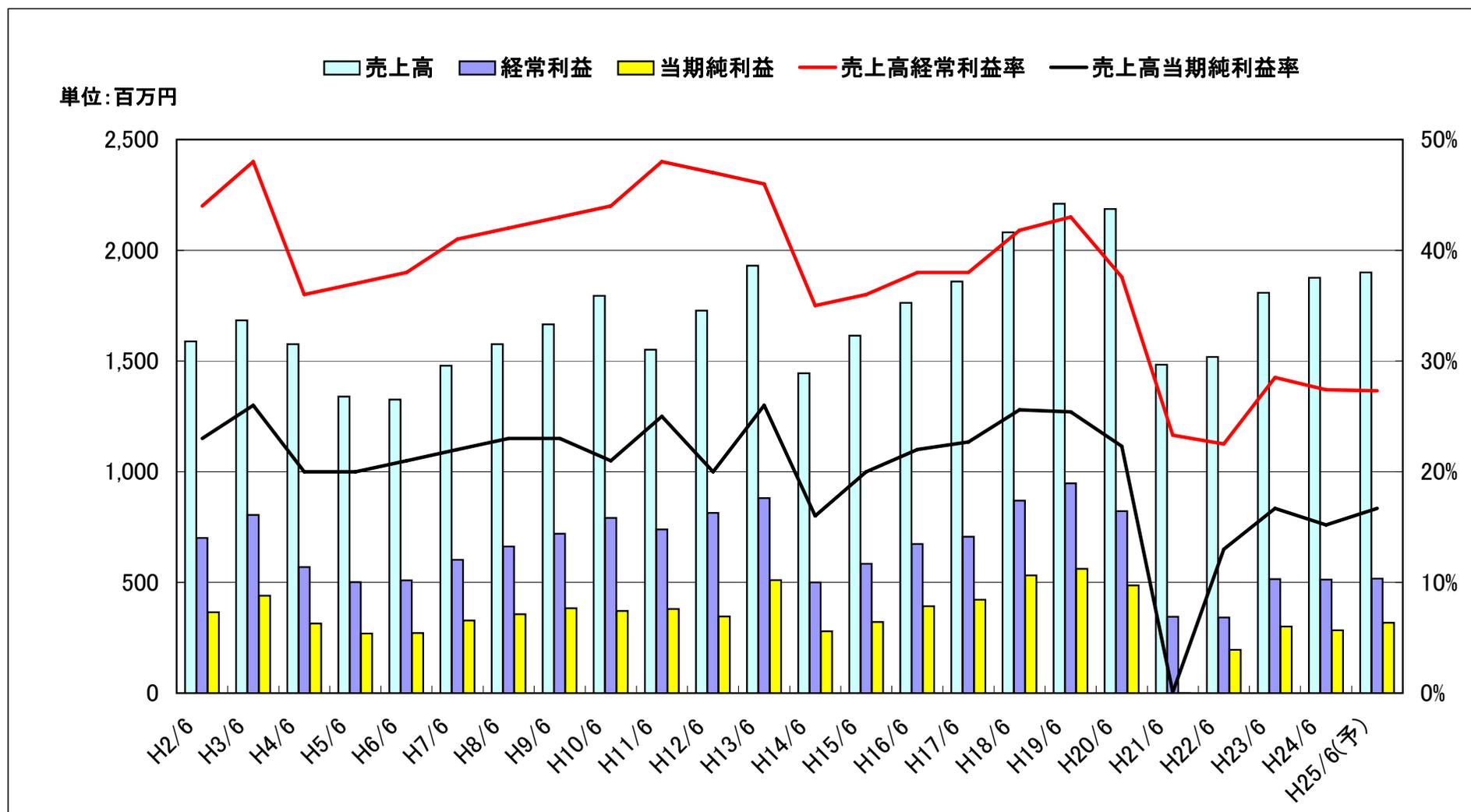
新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況



業績の推移



実質機械受注と月次売上高

